



おがさわら

議会だより

第 130 号



硫黄島洋上慰霊祭



記念すべき初めての交流～ガラパゴス諸島の学生と～

決算特別委員会	2
議案審議	4
一般質問	5
委員会報告	8
編集後記	10



スマートフォンから見やすい
デジタル版議会だよりはこちらから
<http://www.gijiroku.jp/ogasawara/>

硫黄島訪島事業はここ2年
洋上慰霊となっています。
なるべく早く停泊を可能と
し、上陸をして、旧島民の
方々の訪島事業と小笠原の
子供たちへの平和教育の場
をなんとか再開させたいも
のです。

議会がチェック！！

9月定例会では、村長から提出された「29年度決算」の審査を行うため、2日間にわたり決算適正かつ効率的であったか？」次年度の予算編成に生かすため、審査を行いました。委員からをご紹介します。

歳入

東京都市町村総合交付金

7億5,345万円

問 他の人口規模等が類似している町村と比べると交付額が少ないのでは。(一木)

答 各市町村交付額は29年度から公表されている。単年度での比較分析は難しい。21年度以降毎年7億円代の額の交付を受けている。各年度の状況に応じて増減があると考えているが、ほかの町村も同様なのでは。また当村では他町村には無い小笠原諸島振興開発特別措置法による収入もある。(財政課長)

問 面積が100km²以上の市町村は交付金額を決める際に使われる算定係数が加点される仕組みだが、小笠原村は対象外となっている。世界自然遺産に登録され、より重要性を増した属島の管理という役目を村は担っているのだから、この交付基準の対象となるよう働きかけられないか。(一木)

答 今後はそういったことも東京都に訴えかけていく。(村長)

※市町村総合交付金…

東京都が多摩・島しょの市町村の財源を補うために配分している交付金。交付額は市町村の財政状況などに基づき東京都が決定します。

歳出

バス事業 2,655万円

問 乗客数が増えている。ニーズが高まっているととらえているが、運行便数を増やす考えはあるか。(清水委員長)

答 採算を考えながら増やすことは難しいが、議会から採算よりも増便という提案があれば考えていきたい。(村長)

硫黄島関連事業 2,248万円

問 特別貸借権の今後について村長はどう考えているか。(一木)

答 返還から50年、過去の経緯を知っている我々世代で整理解決したいと思っているが、様々な課題がある。(村長)

問 遺骨収集で使用する車両、重機が現地できちんと管理されているか確認をしているか。保管方法について改善を。(杉田)

答 訪島の折に管理を委託している業者から報告を受ける等している。(総務課長)

住宅政策推進事業519万円

問 今後、これまでの規模での宅地分譲は難しいと思うが、小規模ではどうか。硫黄島一泊所の土地建物の現状は。(一木)

答 硫黄島一泊所は引き続き入居してもらおう。村営住宅は入居者がいなくなったら取り壊す予定。周辺の土地含め一体的な利用を考えていく。(副村長)

委員長 清水良一
副委員長 稲垣 勇

特別委員会が開催されました。「予算の使い方」などのような指摘・要望があったのか、その一部

有料老人ホーム運営 8,050万円

問 特別養護老人ホームを作る考えはあるか。(安藤)

答 直近で具体的な動きはない。(村長)

問 財源は利用者からの使用料1,200万円のみ。赤字解消のアイデアは。(一木)

答 島で最期を迎えたいという要望に応えるために当初から赤字覚悟で施設を作った。財源確保の努力はしていくべきだが、難しい。(副村長)

ネズミ食害対策事業 44万円

問 農作物や集落内の被害が多。絶滅させた島の実例も踏まえて対策を考えてほしい。島全体で考えて取組まないと減らすことはできないのでは。(稲垣・一木・安藤)

答 集落内と農地の問題、さらに島全体での取組みについては農地は農地周りに殺鼠剤をまくことで対応している。殺鼠剤の購入費補助として、50万円を毎年計上しているが使い切っていない。足りなければ、補助額を増やす検討をする。

集落の駆除は、環境課が昨年試験的に実施。来年度は回数を増やす等も含め他の機関と連携し進めたいが、ネズミが山から降りてくるので、全島の対応に至っていない。海外の事例のように餌を変えると、兄島で殺鼠剤を使用したとき、今度はアカガシラカラスバトが食べる等の問題にも波及するので、今は対症療法になるが、他の機関と検討しながら対応したい。(副村長、環境課長)

認定第1号ほか8件 平成29年度小笠原村一般会計及び 特別会計歳入歳出決算を認定

29年度決算は、委員会での審査の後、本会議で採決を行いすべて認定しました。

今回の決算委員会では、村の所有する財産、AEDの管理に一部不備があることが明らかとなりました。

委員会からは特に以下の点を指摘、平成29年度決算についてはすべて認定すべきと議長に報告しました。

決算委員会からの意見

- ・ネズミによる被害が父・母島両島で急増している。対策を。
- ・村所有の物品、車両等の適正管理を。
- ・重度心身障害者（児）に対する福祉、教育、医療面の支援を図りたい。
- ・行政需要の増に対応するべく職員の定数見直しを含めた積極的な施策の検討を求める。

一般会計決算

歳入総額	49億2,650万5,424円
歳出総額	47億5,730万3,209円
歳入歳出差引残額	1億6,920万2,215円

特別会計決算

歳入総額	20億6,089万143円
歳出総額	20億4,684万4,873円
歳入歳出差引残額	1,404万5,270円

国民健康保険や簡易水道事業、介護保険など、合計8の特別会計があります。

●平成30年度小笠原村一般会計補正予算を可決

✓簡易水道事業特別会計への繰出し	1億975万3,000円
✓減債基金積立金の積み増し	8,460万2,000円
✓沖ノ鳥島視察事業中止に伴う減額分	△2,581万3,000円
	など

●生ごみ処理槽8槽を購入

電気などを使わずに、土壌菌と発酵促進剤を使って生ごみを自然に還元させる生ごみ処理槽を、母島評議平に設置します。

購入金額 1,429万9,200円

●小笠原村村税条例の一部を改正

地方税法等の改正に伴い、たばこ税にかかる村の税条例を改正しました。

内容 加熱式たばこの課税方式の見直し、たばこ税の税率の引き上げ

●教育長を選任する人事案件に同意

現教育長の松本 隆氏を、再任することに同意しました。

賛成： 稲垣・杉田・鯉江

反対： 一木・安藤・清水

※賛否同数だったため、議長裁決により同意。

●出資法人「小笠原ラム・リキュール(株)」の経営状況を報告

村が出資している「小笠原ラム・リキュール(株)」の、経営状況について毎年報告を受けています。平成29年度は442万8265円の純利益が計上されました。

このほかの議案などの審議結果は、小笠原村ホームページをご覧ください。

一般質問

清水良一議員



カーボンマネジメント事業の進捗及びエネルギービジョン達成のための今年度来年度の実行計画について

清水議員 ①具体策は。②知見を村民へ。③節電状況は。④売電状況は。⑤発電なし又は発電量が減った施設がある。⑥南海トラフを考えた計画を。

村長 ①エネルギー安定確保が重要。母島再生エネルギー100%供給プロジェクトも協議。⑥できることからやる。

環境課長 ①地球温暖化対策実行計画は年内策定し次年度具体化。太陽光パネル交換や定期維持管理を検討。②計画を公表。③大幅な増減はなし。⑤奥村交流センターは29年度予想発電量の約30%、複合施設約50%。発電量低下も承知。

総務課長 ④認定審査が遅延。

各ビーチにおける救急救命の現状と津波等の告知状況について

清水議員 ①AEDの備えは。②防災無線の聞こえや保守は。英語放送の検討を。③通話エリア明示を。④避難誘導サインが必要。⑤救急搬送に時間がかかる。島民の対応等は。

総務課長 ①計32カ所に設置。②主要な海岸に緊急告知している。保守は年2回。提案は受けとめる。③考えていない。④検証し必要な表示をしたい。

医療課長 ⑤非常備のため、時間がかかる場合は救急連絡後、可能なら診療所へ搬送を。

小笠原村における子育て教育のビジョンについて

清水議員 実績と抱負を伺う。

教育長 授業力涵養や教室秩序回復等。確かな学力で、積極的に努力する子供を育てる。

鯉江満議員



小笠原の安全安心について

鯉江議員 ①お年寄りや子供など弱者の避難計画は作成・実施しているのか。②津波対策として新たな公共施設は高台や人工地盤の高床式で建設することを、村はもとより都や国関係の施設にも働きかけているか。③小・中学校前の大村川暗渠化と、宮之浜交差点改善の進捗状況は。④犯罪防止と抑止を考えた施策を推進すべき。⑤島内主要箇所監視カメラを設置する必要がある。村長の考えを伺う。

村長 ①津波対策も含め、防災関係機関と協力・連携し、防災対策の充実・強化に努める。④警察等関係機関や村民の協力を得て、安全・安心な村の構築へ努力。⑤父島・母島の船客待合所への監視カメラ設置は、東京都町村会と足並みをそろえて都港湾局に要望する。島内主要箇所への設置は、関係機関と議論したい。

総務課長 ①乳幼児、身体障害者、高齢者等を要配慮者として要配慮者支援計画を定め、小笠原村津波避難計画では、要配慮者、避難行動要支援者の避難対策を定めた。昨年7月には津波避難検証を実施。返還50周年事業等が落ちついたら訓練を行い、定例的に実施できる体制等に結びつける。

総務課企画政策室長 ②国や都の機関から相談もある。津波対策を踏まえた公共施設の整備手法を調査・研究したい。

建設水道課長 ③大村川の暗渠化は維持管理上課題が多く、相当難しいとのこと。都和協議を続けたい。村道側はイメージランプを4カ所施工。宮之浜道の交差点は、都が今年度改良工事を実施すると聞く。イメージランプとあわせて通学路の安全に寄与すると期待。

一木重夫議員



ワシントン条約の規制強化から宝石サンゴ漁業を守ることにについて

一木議員 来年5月、ワシントン条約の締約国会議がある。宝石サンゴが附属書3から附属書2に規制強化されると、国際的な保護意識が高まり、国際取引が制限され、需要も減少して価格が暴落し、宝石サンゴ漁業が大きなダメージを受ける。広大な小笠原には宝石サンゴ漁業で使っていない海域が山ほどある。そこを資源調査して、絶滅のおそれはないと証明すればいい話。資源調査を国に求めるべき。宝石サンゴの保護・増殖も国・都に求めるべき。ワシントン条約の規制強化に対抗する交渉に役立つ。トレーサビリティの制度も要望すべき。流通が透明になれば密漁品が市場に出回らなくなる。

村長 国レベルの話。村が関与できることは限られている。父島・母島両漁業協同組合との調整や意見聴取、漁業者の要望を受けて考える。

航空路について

一木議員 都の1000m空港開設案は、ATR600Sの開発期間、工期に20～25年かかること、新石垣空港の環境問題を参考にすると、早く見積もっても35年以上先の長期的なビジョン。建設費用も相当かかる。もう少し現実的に考えないのか。10～15年でできる航空路を今考える時期ではないか。父島には最近でも、大型・中型ヘリコプターが八丈島から飛来している。オスプレイも来ている。村営で場外離着陸場の防災空港を目指さないか。小池都知事の1000m滑走路の発言が出て、今が決断の時。

村長 今の段階で私がそういう判断をできると思うのは誤り。東京都が一定の結論を出すのを急いでいきたい。

安藤重行議員



防災対策計画・津波防災対策推進計画の諸課題について

安藤議員 ①村長の公人としての心がけは。②防災計画のデータが最新データではない。修正は。③防災士等の配備や職員育成は重要。④防災普及計画の職員の項に津波が抜け、他の項目との整合性がない。⑤避難態勢の確立とは。⑥防災教育・訓練指導等を伺う。⑦避難所管理の検証を。停電対応は。⑧避難所の収容人数制限検証は。⑨電力施設の応急対策計画は。⑩太陽光発電設備等、避難所の整備方針は。⑪備蓄倉庫の整備状況は。⑫避難誘導看板等の増設を。

村長 ①公人として全責任を負い人命第一で陣頭指揮を取り訓練・災害備品充実等に努める。

総務課長 ②三年に一度の改定で変更。データは次の改正で更新。③今後資格取得を検討。職員に防災訓練の中で習熟を図る。④津波対策の中で対応。⑤実態に合わせ確立。⑥消防団の訓練と避難方法の訓練を実施。個々の説明も検討。⑦担当職員を決定。暑さ対策は重要。設備や質の充実に注意。⑧関係機関と連携で対処。⑨応急対策用資機材活用。⑩事例・効果を検証し検討。⑪災害用物資を1週間分備蓄予定。⑫検証し整備する。

国民健康保険の改正後の対応について

安藤議員 ①周知方法は。工夫し丁寧に説明しているか。②村民に不安を与えない取り組みは。現状と今後は。③広報がわかりにくいのでは。

総務課長 ①村民だよりやパンフレット等で周知。丁寧に説明し不安を解消。②低所得者に軽減措置設定。世帯の負担増を考慮。被保険者全員に周知を実施。③改善する。

稲垣
勇議員



新ゆり丸の動向について

稲垣議員 昨年の第4回定例会でゆり丸の更新について質問したが、その後の動きは。

村長 6月14日の東京都離島航路地域連絡協議会で、伊豆諸島開発から、ゆり丸の更新の必要性について、八丈島・青ヶ島航路及び父島・母島航路に係る航路確保・維持計画の中で、ゆり丸の老朽化が顕著なこと、各航路の現状の問題点等を把握・分析するため、航路調査を実施することが示された。今後、新船の建造に向け所要の作業と手続が行われることになる。村としても必要な支援・協力を行いたい。

稲垣議員 ①母島島民としては一歩も二歩も進んだように思うが、そう考えてよいか。②今後どのような航路の調査等が考えられるのか。③来年6月の協議会に向けておおよその計画が上がるということか。④来年10月ごろまでには、新造に向けた計画が、都である程度まとまるということか。

総務課企画政策室長 ①よろしいかと思う。②主として、各航路の問題点や課題等を把握・分析するためのアンケートやヒアリング調査、新しい船の諸元や建造の経費、運航の運営収支等と、竣工までの大体の建造スケジュールの3点を調査すること。既にコンサル会社を決定し、中身を調整中と聞いている。③来年6月開催予定の航路協議会で、建造に向けた最初の設計を盛り込んだ航路確保維持計画を提出すると考えている。④調査がうまくまとまり、航路協議会で計画内容が認められるという前提で、最短で考えれば、来年6月に建造に向けた最初の手続を盛り込んだ形で提出できるのではないかと。

池田 望議長出張報告



月 日	訪問先	出張の用務
7月10日	東京都知事、東京都議会ほか	小笠原諸島返還50周年記念行事お礼 (同行者 村長)
7月11日	国土交通大臣、海上保安庁長官	
7月12日	航空路協議会	会議出席
7月13日	第95回小笠原諸島振興開発審議会	会議出席
8月2日	東京都町村会・東京都町村議会議長会 合同会議・結団式	会議出席

村民の希望する船のチケットが買えない問題

おがさわら丸乗船券



8月10日東京竹芝出港のおがさわら丸のチケットが、発売初日当日の午後買いに行くとすでに売り切れ、キャンセル待ちとなってしまった。

ある日村民との雑談でこのような話を聞きました。生活航路でもある定期船に、小笠原に住んでいる人が希望する日に乗船できないのは問題。さっそく村に改善の要望を申し入れました。その後問題は解消されたでしょうか。(杉田)



議員から話を聞いてすぐ小笠原海運父島営業所に事実確認をしたところ、8月出港の乗船券は、販売開始後2時間で売り切れ、キャンセル待ちに切り替わったそうです。

おがさわら丸は島と本土を繋ぐ唯一の定期航路であり観光シーズン等繁忙期であっても村民が乗船できるよう十分な村民枠の確保が図られるべきと村も考えており、小笠原海運へ要望しました。(副村長)

《要望への回答》

小笠原海運からの回答は、村民が発売初日に乗船券を確保できるよう、村民枠を拡大する。ただし発売初日の翌日以降はこれまでと同様、キャンセル待ちをお願いする。とのことでした。

提示されたこの方法で改善されるか、今後動向を注視していきます。今回の改善策は、発売初日に限られたものであることから、村としてもチケット発売開始日を村民が把握できるような広報に努めてまいります。(副村長)

これを受け、10月2日村議会は小笠原海運を訪問し、回答内容の確認を行いました。

その他の議題

- 小笠原諸島返還50周年記念事業
- 世界自然遺産（継続）
- 平成31年度小笠原諸島振興開発事業概算要求について

6月定例会以降の硫黄島に関する各事業の報告を受けました。

遺骨収集事業 …… 滑走路地区の掘削作業について



滑走路下の掘削実施で遺骨が収容されているのか。(安藤)



滑走路下の掘削は遺骨収集ではなく高性能レーダーによる試掘。その最中に遺骨が見つかる事もあるが、現在報告は受けていない。(村長)

小笠原航空路開設推進特別委員会 9月12日

返還50周年記念式典で都知事は

「村民の安心、安全を守る観点から、飛行場建設は必要」

「1000m以下の滑走路で運用可能な機材について調査する」

と発言。その詳細な説明がありました。

また、7月12日に開催された航空路協議会で話し合われた内容等について説明がありました。

平成27年に小笠原空港開設推進特別委員会として設置。同年、「空港開設」から「航空路開設」に名称を変更。航空路開設に向けて、各委員が村執行部や他の委員に対して質疑をしたり、意見を述べる場です。航空路開設の在り方について、活発な質疑・意見の発信がされています。今回の委員会でも様々な意見がなされました。

航空路協議会※

※小笠原の航空路開設について検討、合意形成を図るため、都が主体となって設置した協議の場。



空港をつくってください。機種を選んでくださいではない。空港をつくるために何をすべきか。(杉田)



飛行場をつくり航空路を開設していただければ、私的にはそれです。私もそういう原点に立ち返り、これから要望活動等もしていきたい。(村長)



●小笠原を応援する会※はとにかく飛行場をつくろうと。飛行機はこれから決める。とにかく飛行場をつくるということで、村長と議会みんなが進めていきたい。(池田議長)

●私の見解だが、悲しい言い方になるがもうできる訳ない、(東京都は)やらないと思っている。航空路ができればもちろんそれがいいと思っている。(鯉江)

※小笠原を応援する会…平成27年9月に設立。二階俊博自民党幹事長等が発起人となり、小笠原島経験のある国会議員を中心に構成。小笠原諸島の振興開発と国益の保全を図り、住民生活の安定を推進する目的をもって課題の解決に向け取り組むため設立されました。

航空路協議会の会議録、配布資料は、東京都公式ホームページで見ることができます。

東京都総務局行政部>多摩・島しょの振興>小笠原航空路協議会 で

平成30年第4回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
12月17日（月）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
12月19日（水）	午前9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネル、小笠原村公式サイト内ライブ配信システムで中継放送を行っています。ぜひご覧ください。

会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。

- 村役場議会事務局
- 地域福祉センター図書室
- 母島支所
- 母島図書室で閲覧できます。

会議録も読んでみてね！



パソコンやスマートフォンなどで見ることもできます。
小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で **検 索**

編集後記

NPO法人小笠原自然文化研究所らの返還50周年記念自主事業で、小笠原の中高生5人が8月にエクアドルのガラパゴス諸島を訪問しました。今年3月にはガラパゴスの中高生が小笠原を訪問。相互の国際交流となりました。

今年には日本とエクアドルが国交を樹立して100周年のため、9月にエクアドル大統領が日本を訪問。安倍総理はエクアドル大統領の晩餐会を主催しました。小笠原とガラパゴスの国際交流が縁となり、村長が晩餐会に招待されました。安倍総理は「こういう交流が未来ある子供たち、将来に亘ってつながっていくといい」、エクアドル大統領は「これを契機に将来ある子供たちが交流をする機会を重ねていきたい」と話していたそうです。9月の村議会の中で報告されました。ガラパゴスを訪問した島っ子の一人が、次のような感想を書いています。

「国内外を問わず見聞を広めていき、自分が生まれ育った小笠原に恩返しをするてだてが無いか模索していきたい。」

小笠原村の未来にとって、大きな財産となる記念事業になりました。
(一木重夫)

★議会だより編集委員

一木重夫 安藤重行★